

2013 年度前期 工学部デザイン学科 授業評価 目次

| 授業コード | 授業科目名 | 開講時限等 | 担当教員 | ページ |
|-----------|-------------------|--------------------------------|----------|--------|
| T1P002001 | 図学演習 | 1 年前期月曜 3 限 | 寺内 文雄他 | T1P 1 |
| T1P005001 | デザイン論 I | 1 年前期火曜 3 限 | 植田 憲他 | T1P 2 |
| T1P013001 | 形の工学 | 2 年前期水曜 1 限 | 久保 光徳 | T1P 3 |
| T1P017001 | コミュニケーションデザイン I | 2 年前期水曜 4,5 限 | (塩谷 徹) 他 | T1P 4 |
| T1P033001 | コミュニケーションデザイン III | 3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限 | 桐谷 佳恵他 | T1P 5 |
| T1P034001 | デザイン科学演習 III | 3 年前期金曜 1 限後半 / 3 年前期金曜 2 限 | 岩永 光一他 | T1P 6 |
| T1P036001 | 色と形の心理学 | 3 年前期月曜 3 限 | 日比野 治雄他 | T1P 7 |
| T1P037001 | 環境人間工学 | 3 年前期水曜 2 限 | 勝浦 哲夫 | T1P 9 |
| T1P038001 | プログラミング演習 II | 3 年前期金曜 4 限後半 / 3 年前期金曜 5 限 | 玉垣 庸一 | T1P 10 |
| T1P039001 | デザイン文化計画演習 | 3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限 | 鈴木 直人他 | T1P 11 |
| T1P048001 | 材料計画演習 | 4 年前期木曜 4 限後半 / 4 年前期木曜 5 限 | 寺内 文雄 | T1P 12 |
| T1P049001 | 人間工学演習 | 4 年前期火曜 3 限 / 4 年前期火曜 4 限前半 | 勝浦 哲夫他 | T1P 13 |

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 授業科目名 | : 図学演習 |
| 担当教員 | : 寺内 文雄, 小野 健太 |
| 年次・開講時限 | : 1 年前期月曜 3 限 |
| 授業コード | : T1P002001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 49 人 / 受講者数 73 人 (回収率 67%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 47 件)

平均値 4.17, 全体の 78 % の学生が満足していると回答している。一方で満足していないと回答した学生が 1 名いた。全員が満足と感じられるように改善していきたい。

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されてい了吗？ (回答 48 件)

85 % の学生が、TA の人数が適切であったと回答している。引き続き、必要な TA の数を確保する必要がある。

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか？ (回答 48 件)

平均値 4.52 と高い値であった。教室環境の評価 (4.42) も高いことから、授業環境は適切と考えている

2. 授業アンケート全体に対するコメント

最終的には、ほとんどの受講者が、概ね授業目標を達成できていたと思います。追試を受ける人がもっと減るさらにはいいと思っています。

3. その他のコメントや連絡事項

図学において、理解への早道は、わからないところを質問することであろうと思います。遠慮せずに、教員や TA の学生さんにどんどん質問してください。

作成 (者) : 寺内文雄

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 授業科目名 | : デザイン論 I |
| 担当教員 | : 植田 憲, 寺内 文雄, 青木 弘行, 樋口 孝之 |
| 年次・開講時限 | : 1 年前期火曜 3 限 |
| 授業コード | : T1P005001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 48 人 / 受講者数 76 人 (回収率 63%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 47 件)

見にくいと答えた原因を確認すると, 「スライドの文字や図が見にくい」「スクリーンが小さい」との回答, 「スライドの切り替えが早い」とする自由記述がありました。比較的情報量が多くなる授業なので理解を助けるため講説内容を目で追えるようにしている面があります。一方でそのことがノートへの写し取りが間に合わないと感じられていると考えられます。教員としては必要に応じて配付資料を準備するようしていきたいと考えます。また, 受講生には, 言説などの長文は必ずしも写し取る必要はなく適宜教科書や参考図書を活用していくものと理解を促したいと思います。スクリーンが小さいことは将来の改善を求めています。

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 47 件)

「どちらともいえない」といった回答が比較的多くありました。本授業では, 感想程度のミニレポートを課すことは多くありますが, 復習となる宿題等を課すことをあまり行っていません。そのため「準備学習・復習に平均してかける時間」も 1 時間未満が半数を超えています。

本授業のように歴史や理論を学ぶ場合, 授業時間内に学ぶことは学習内容の基礎理解と興味への導入であり, 理解を深めるためには準備学習や復習は欠かせません。本授業は授業内容の範囲と教科書が一致するものではないので, 教科書を読むことで授業内容の確認とともに周辺知識を加味した複合的な理解が可能になります。教科書を使った復習を習慣づけてください。また, 教員からも自己学習への示唆として適切な宿題を課すようしていきたいと考えます。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 46 件)

授業の性質上, 質問がしにくい側面があるかもしれませんが, 質問喚起に限らず, 学生が発言する機会を増やしていきたいと考えます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業の理解度や満足度が「はい」「ややそういえる」「どちらともいえない」に分散しています。試験結果にも同様の分散が認められます。当学科に進学後初めて専門分野の歴史や理論に触れる授業であるために, 専門としては基礎的な内容なのですが, それでも背景知識を持たない学生には難しく感じられるものと思います。本学科で学ぶうえでの必要から授業内容を簡単にすることはできませんが, 伝え方をより工夫していくことは必要だと考えています。各回の授業の骨子を分かりやすくしていきたいと考えます。

3. その他のコメントや連絡事項

専門を学ぶうえで最初の講義科目として, 多くの内容が初めて聞く話ばかりになります。90 分という講義時間に戸惑うかもしれません。人文的な授業内容への取り組みに苦労する学生もいるようにみえます。始めは理解していくことがたいへんかもしれませんが, 本学科で専攻することの成就に向けて, そのスタートにおいて授業への集中力を養う意気込みで臨んでください。

作成(者): 樋口孝之

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 授業科目名 | : 形の工学 |
| 担当教員 | : 久保 光徳 |
| 年次・開講時限 | : 2 年前期水曜 1 限 |
| 授業コード | : T1P013001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 30 人 / 受講者数 55 人 (回収率 55%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか？ (回答 30 件)

正直なところこの環境で満足できるのかと疑問ではあるが、おそらく物理的な環境整備の良さ以上に創造工学センター 2 階のレーザ造形・製図アトリエの持つ雰囲気がこの授業内容にあっているものと思われる。Q6 の「スクリーンの位置が悪い」と感じる学生の割合が大きいことと比較すると、不思議であると同時にさらなら改善に意欲がわいてくる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 29 件)

「どちらともいえない」が 31 % である。努力はしたのだが、やはり空回りの部分が多いようである。どこが問題なのか、もう一度、授業内容、方法を検討し直したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

『よく分からない、何が要求されているのかが分からない』とのコメントは胸に突き刺さる思いがある。確かに、授業内容への興味を維持させたいがための説明不足のままでの応用体験へのあせりがあった事実である。来年は学生が「退屈する」ことを恐れず、この授業に置いて伝えるべきことを冷静に示し、体験してもらおうように再考したい。その反面で、『工学系の話は正直、苦手だったのですが、不思議と楽しかった』とのコメントには救われる思いを感じている。全体として、まだまだ自分の思いが空回りしていることは間違いがないようである。来年に向けて前進したい。

3. その他のコメントや連絡事項

授業内で説明し予告したとは言え、良くみんなが慣れない三次元 CAD に取り組んでくれたものだと感じている。現状のカリキュラムではこの CAD については独学に寄らなければならないのだが、社会の動向をみると設計者・創造者・デザイナーにとっては、良くも悪くも CAD を使うことから避けることはなかなか難しいようなので、多少必要以上に負担を強いることを気にしつつも、現在において「形」というものを“実感”をもって受け止めてもらうためにも、来年度もやや強引に CAD を使用することをすすめたいと思っている。

作成 (者): 久保光徳

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 授業科目名 | : コミュニケーションデザイン I |
| 担当教員 | : 塩谷 徹, 大垣 友紀恵 |
| 年次・開講時限 | : 2 年前期水曜 4,5 限 |
| 授業コード | : T1P017001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 22 人 / 受講者数 48 人 (回収率 46%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 21 件)

デザインのプロの方々を非常勤にお招きしての授業であり, この項目の評価は 4.9 と極めて高くなっています。

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか? (回答 21 件)

この項目の評価も 4.86 と高い値であり, 興味を持って授業に臨んだことがうかがわれます。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 21 件)

学科の平均は 3.78 と低めですが, この授業はさらに低く 3.19 でした。せっかくデザインのプロの先生方をお招きしているので, 積極的にアプローチしてください。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

出席率は高くても質問が少ないのがやや気になります。

3. その他のコメントや連絡事項

デザインの現場で活躍されている(もしくは活躍されていた)先生方の指導を直接仰ぐことができるという, たいへん恵まれた演習授業です。積極的にみなさんのキャリアに役立ててください。

作成(者): 玉垣庸一

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 授業科目名 | : コミュニケーションデザイン III |
| 担当教員 | : 桐谷 佳恵, 伊藤 恵士, 三尾 康明 |
| 年次・開講時限 | : 3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限 |
| 授業コード | : T1P033001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 33 人 / 受講者数 43 人 (回収率 77%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 3 件)

「複数のコミュニケーションデザインに関する領域を学べてよかった」「現役で働く OB の話はとてもためになった」「企業で働く方の実務的な演習もあり、非常に楽しく課題に取り組むことができた」というコメントを頂き、授業内容の設定が適切と評価されたと判断できた。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

その一方で「毎回毎回の授業でやってくるべきことを明確にして欲しい」「後半の先生のほうの講義で、スライド

がとても読みづらかった」「思いつきで進められた部分は、直してほしいと思う」というコメントもいただき、非常勤講師との連携をさらに深めて対応したいと思う。また「教室を何とかしてください」というコメントも頂いた。これは、単独の授業では対応しきれない問題ではないが、授業中に改善できることであれば、授業内に指摘してもらって、対応していきたいと考えている。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？(回答 33 件)

「はい」が 54.5%、「ややそういえる」が 36.4%、「どちらともいえない」が 3 名 (9.1%) であったため、満足度の高い授業であったと考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

全体的に見て、評価された授業のようである。

今後も、実社会でデザイン業務にあたる卒業生に担当頂く、というスタイルを続ける予定である。

しかし、自由記述では厳しいコメントもあった。こちらにも、非常勤講師の具体的実施形態や内容を把握するよう努めることとする。さらに、受講生にも授業評価をまたず、問題点があれば常勤の方にすぐに連絡をもらいたいと考えている。

3. その他のコメントや連絡事項

2 年次でコミュニケーションデザインのさまざまな課題を経験した受講生に、さらにスキルアップを図ってもらうのがこの授業の狙いである。デザイン業務に携わる若手の卒業生に、現場の様子を含め、現実的な観点からデザイン実践をできるようにしてゆきたい。

作成(者): 桐谷佳恵

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | : デザイン科学演習 III |
| 担当教員 | : 岩永 光一, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 石橋 圭太 |
| 年次・開講時限 | : 3 年前期金曜 1 限後半 / 3 年前期金曜 2 限 |
| 授業コード | : T1P034001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 44 人 / 受講者数 64 人 (回収率 69%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 40 件)

満足度の平均値は、4.05 と十分ではない。理解度が平均 3.78 と低いことと関係しているかもしれない。異なる 4 研究室で実施しているので、授業内容について再検討する必要があるように思う。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業でよかった点では、それぞれの研究室の内容に個性がある点のようです。課題がユニークという評価もいただきました。一方、改善すべき点に記述されている点は、来年度以降改善していきたいと考えています。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 寺内文雄

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 授業科目名 | : 色と形の心理学 |
| 担当教員 | : 日比野 治雄, 小山 慎一 |
| 年次・開講時限 | : 3 年前期月曜 3 限 |
| 授業コード | : T1P036001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 48 人 / 受講者数 68 人 (回収率 71%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 46 件)

授業科目の性格上、かなり広い領域をカバーした内容でしたが、多くの受講生が進度を適切であると感じてくれていたことは心強い限りでした。来年度も、新しい内容のトピックも組み入れながら受講生の皆さんにとって興味深い内容にしたいと考えています。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 45 件)

この間についての回答の平均が最も低い数値になっていましたので、来年度はもっと質問しやすい雰囲気を作ろうと考えています。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 46 件)

本授業に対する評価においては、総体的に(この問も含め)、どの項目もほぼ平均値に近い結果でした(これは昨年度までの評価結果ともほぼ同じです)。もちろん、個々の授業の個々の項目においては平均より高い評価、平均より低い評価さまざまでしたが、重要なことはそれに一喜一憂することなく、来年度以降の授業内容の改善に資するように対策を立てることだと思います。

ただ、もし多くの受講者が授業内容について不満に思っていることがあれば、やはりそれは問題ですので、そのような点を明らかにできるという点で授業評価アンケートには大きな利点もあるものと思います。また、授業評価があるということが、私たち教員の側に受講者にとって少しでもわかりやすい授業を行おうとする意志を維持する動機ともなるのも確かです。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

○本授業の組み立て方と取り組み方

本授業ではパワーポイントを利用し、視覚的に理解しやすい内容となることを毎学期心掛けています。使用するスライド等は教室の後方にある受講生にも見えるように毎年工夫しているつもりです。また、内容的にも、特別な専門知識を有することを前提とせず、基本から丁寧に説明するようにしています。さらに、重要な点については折に触れて繰り返し解説を加えることも行っています。

本授業では、心理学的な視点から考えることのできる能力の基礎を身に付けることを主眼において計画したもので、デザインにおける心理学的な側面について科学的に考察できる素養を習得することを意図した内容となっています。

3. その他のコメントや連絡事項

本授業では、毎年前年度の授業の総括を行い、その結果を生かすようにしていますが、デザインの領域では「新規性」も重要な要素ですので、取り上げる内容も可能な限り毎年アップデートするようにしています。また、これまでの授業の経験から、デザインの学生の皆さんは実際のデザイン活動に大きな関心を有していることがわかっていますので、来年度もそのようなトピックをさらに数多く授業に取り入れようと思っています。2011年3月から、当デザイン心理学研究室では工学系初の『千葉大学発ベンチャー』の活動も開始し、そこで扱った具体例等(紹介可能なものに限定されるが)も累積しつつありますので、それらについても積極的に紹介して行きたいと思

ます。

以上、来年度以降も受講者の皆さんの声を今後の授業に生かすよう継続的に努めたいと考えています。

作成(者): 日比野治雄

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 授業科目名 | : 環境人間工学 |
| 担当教員 | : 勝浦 哲夫 |
| 年次・開講時限 | : 3 年前期水曜 2 限 |
| 授業コード | : T1P037001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 48 人 / 受講者数 66 人 (回収率 73%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 46 件)

本年度の Q 16 に対する評価は平均 4.59 で学科全体平均 4.27 より比較的高いものであった。昨年度は 4.5 であったのでわずかではあるが向上した。毎年、少しずつ講義内容をブラッシュアップしていることが反映されたものと思われる。

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか？ (回答 42 件)

上記のことは、Q2 に対する評価が 4.86 (学科全体平均 4.35) と高い評価が得られたことから裏付けられていると思われる。

Q5. 板書、OHP、スライドなどは、見やすかったですか？ (回答 47 件)

さらに Q5 に対する評価も 4.89 (学科全体平均 4.63) と高く、毎年パワーポイントを更新していることも授業の満足につながったものと考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

学科全体平均より低かった項目は、Q7「教室の環境」、Q12「出席」、Q13「予習・復習」の3つであった。「教室の環境」については教員だけで解決出来る問題ではないが、大学として教室の環境の改善を図るようにしていきたい。「出席」については毎回出席をとっており、97.8%は全回、または4/5程度の出席と言うこと深刻な問題ではないが、特に4年次学生等のインターンシップ等とのバッティングがあり、やむを得ないことかもしれない。「予習・復習」については、下記のように授業中に質問紙を配り、その質問に対して次回の授業でかなり詳しく答えることで実際には復習になっているように思う。さらに学生が興味を持てる授業に改善していくつもりである。

3. その他のコメントや連絡事項

この「環境人間工学」は私が担当している7科目の中で唯一単独での講義科目であり、学生の授業評価が直接、授業の改善に役立つものである。この授業では、毎回、授業中に質問紙を配り、その日の授業内容に関する質問、意見などを全員に書いてもらっている。その質問に対して次回の授業でかなり詳しく答えるようにしている。この方式によって理解度、興味などが把握でき、学生もより興味を持って授業を受けることができるようである。そのことは自由記述欄の良かった点として「質問を紙に書かせて回収するやり方は良いと思う」、「質問に答えてもらえるのがいい」という記述によっても裏付けられている。

作成(者): 勝浦哲夫

| | |
|---------|------------------------------------|
| 授業科目名 | : プログラミング演習 II |
| 担当教員 | : 玉垣 庸一 |
| 年次・開講時限 | : 3 年前期金曜 4 限後半 / 3 年前期金曜 5 限 |
| 授業コード | : T1P038001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 4 人 / 受講者数 4 人 (回収率 100%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか? (回答 4 件)

プログラミングの授業なので、いちど休むとついていけないことがあります。この授業は、その点出席率は高く、よかったですと思います。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 4 件)

この項目も数値的には 4.5 とかなり高評価ですが、実感としてはもう少し積極的に質問してもらってもよかったですと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

学生がついてきているか確認しながらゆっくりと授業を進めましたので、こちらが意図した内容全てをカバーすることはできませんでした。プログラミング経験がほとんどない学生にとっては、プログラムの詳細を極めることよりも、プログラムとはどのようなものか体感することのほうが、この時点では有効であると考えます。

3. その他のコメントや連絡事項

受講者数が少ないので、お互いに教え合うなど、アットホームな雰囲気は保てたようです。

作成(者): 玉垣庸一

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 授業科目名 | : デザイン文化計画演習 |
| 担当教員 | : 鈴木 直人, 植田 憲 |
| 年次・開講時限 | : 3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限 |
| 授業コード | : T1P039001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 11 人 / 受講者数 18 人 (回収率 61%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 11 件)

この設問に関しては、評価が高かった。同演習は、学外の地域社会における活動を行うものであるが、その会場が適切であったことが大きいと思われる。体感的にも、演習が円滑にできたとの実感があり、今後も、環境の向上にととめたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業評価そのものの数値は決して高いものとはいえない。反面、否定的に捉える見解も少なく、履修生の多くには、日常できない体験を通して、大きな刺激、学びの機会を付与することができたものと思われる。自由記述にも、「デザインを野外に出て学ぶ機会はとても貴重で勉強になりました。」との見解が記されており、上述を説明するものである。

3. その他のコメントや連絡事項

デザインを学ぶ学生が、大学という殻のなかに閉じこもるのではなく、地域 = 実社会のなかで、自らの五感を駆使しつつ、情報収集・問題発見、デザイン開発を実践する体験が得られるよう心がけた。学生によっては、それが負担となってしまったことも否定できないが、デザイナーとして必要不可欠な事項であり、その効果は高かったと思われる。今後も改善しつつ継続する予定である。

作成(者): 植田 憲

| | |
|---------|------------------------------------|
| 授業科目名 | : 材料計画演習 |
| 担当教員 | : 寺内 文雄 |
| 年次・開講時限 | : 4 年前期木曜 4 限後半 / 4 年前期木曜 5 限 |
| 授業コード | : T1P048001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 12 人 / 受講者数 12 人 (回収率 100%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 11 件)

平均値が 4.82 であることから, 適当な内容であったと考えている。

Q11. 授業内容の量を考慮すると, 進度は適切でしたか? (回答 11 件)

平均値が 4.73 であることから, 適当な進度であったと考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

比較的少人数の演習授業科目であるため, 受講生個々が高い到達度であったことがよくわかりました。後半の課題でも, それぞれ完成度の高いモノを作れていたと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 寺内文雄

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 授業科目名 | : 人間工学演習 |
| 担当教員 | : 勝浦 哲夫, 岩永 光一, 下村 義弘 |
| 年次・開講時限 | : 4 年前期火曜 3 限 / 4 年前期火曜 4 限前半 |
| 授業コード | : T1P049001 |
| 授業アンケート | : 回答者数 14 人 / 受講者数 14 人 (回収率 100%) |

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 12 件)

本演習は、学生自身が測定方法論を修得することを目標としています。そのため自身で原理や機器の使い方を調べて資料をまとめ、皆の前で発表することを課題としています。そのことは逆に教材の不完全さにもつながる可能性を秘めていますが、授業時間内で教員が指摘し、修正版を再配布するように心がけています。

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 14 件)

実験装置の準備しやすさの点から、人間工学実験室を教室として使用しています。そのため椅子がスツールであったり机がなかったりと、学習環境としては正直なところ快適ではありません。腰痛にならないよう適宜姿勢を変えたり、全員にメモがとれるようにクリップボードを渡したりして改善に努めます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

環境が決して良いとは言えない中で肯定的意見を多く示していただき、有難うございます。授業中も遠慮なく、意見を頂ければ幸いです。

3. その他のコメントや連絡事項

資料はよくできていますがデモが苦手だったり、プレゼンは上手でも手技の信頼性に乏しかったりと、友人の発表を見ると、様々な点で勉強になると思います。データを得るための手法を説明することの難しさを経験し、それを乗り越えられるように頑張ってください。

作成(者): 下村義弘